

PRESS RELEASE (報道関係者各位)

2002 年 11 月 15 日

2002 年度上期国内 PC (IA) サーバ市場動向調査報告

ノークリサーチ (本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5 : 代表伊嶋謙二 03-5629-2163、
URL : <http://www.norkresearch.co.jp>) では 2002 年度上期の国内 PC (IA) サーバの出荷状況を調査した。2002 年度の予測も併せて調査、報告している。

<2002 年度上期 PC (IA) サーバ市場動向のポイント>**2002 年度 上期 PC (IA) サーバ市場は初めてのマイナス成長**

- 対前年比 95.7% で、142,600 台の市場へ
- 金額市場は大きく後退。低価格サーバ比率拡大で平均単価下落と台数減が響く
- IA サーバ市場は経済環境の停滞による踊り場的な不調。潜在ニーズは高い

メーカーシェアに変動。NEC1 位で変わらずだが、2 位にデルが躍進

エントリサーバ需要 (中堅・中小企業、部門) などの IT インフラの投資意欲が依然として高い。インターネットインフラ業者関連 (IDC など) は需要が停滞。

ラック (薄型) 専用サーバは順調に増加傾向。ブレードは来年度以降へ

進む Windows2000 への移行。LINUX は UNIX 層へシフト

2002 年度全体予測は伸び率マイナスで、318,900 台と見込まれる

対象期間 : (2002 年度上期実績) 2002 年 4 月から 2002 年 9 月

(2002 年度予測) 2002 年 4 月から 2003 年 3 月

対象メーカー : 電子情報技術産業協会 (JEITA) 自主統計参加及び未参加メーカー
日本電気、日本 IBM、富士通、日立製作所、デルコンピュータ、
日本 HP (コンパックコンピュータ)、東芝、三菱電機など

対象機種 : 電子情報技術産業協会 (JEITA) 定義に準ずる

調査方法 : 当該メーカーに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

調査期間 : 2002 年 10 月 ~ 11 月

[2002 年度上期出荷状況]

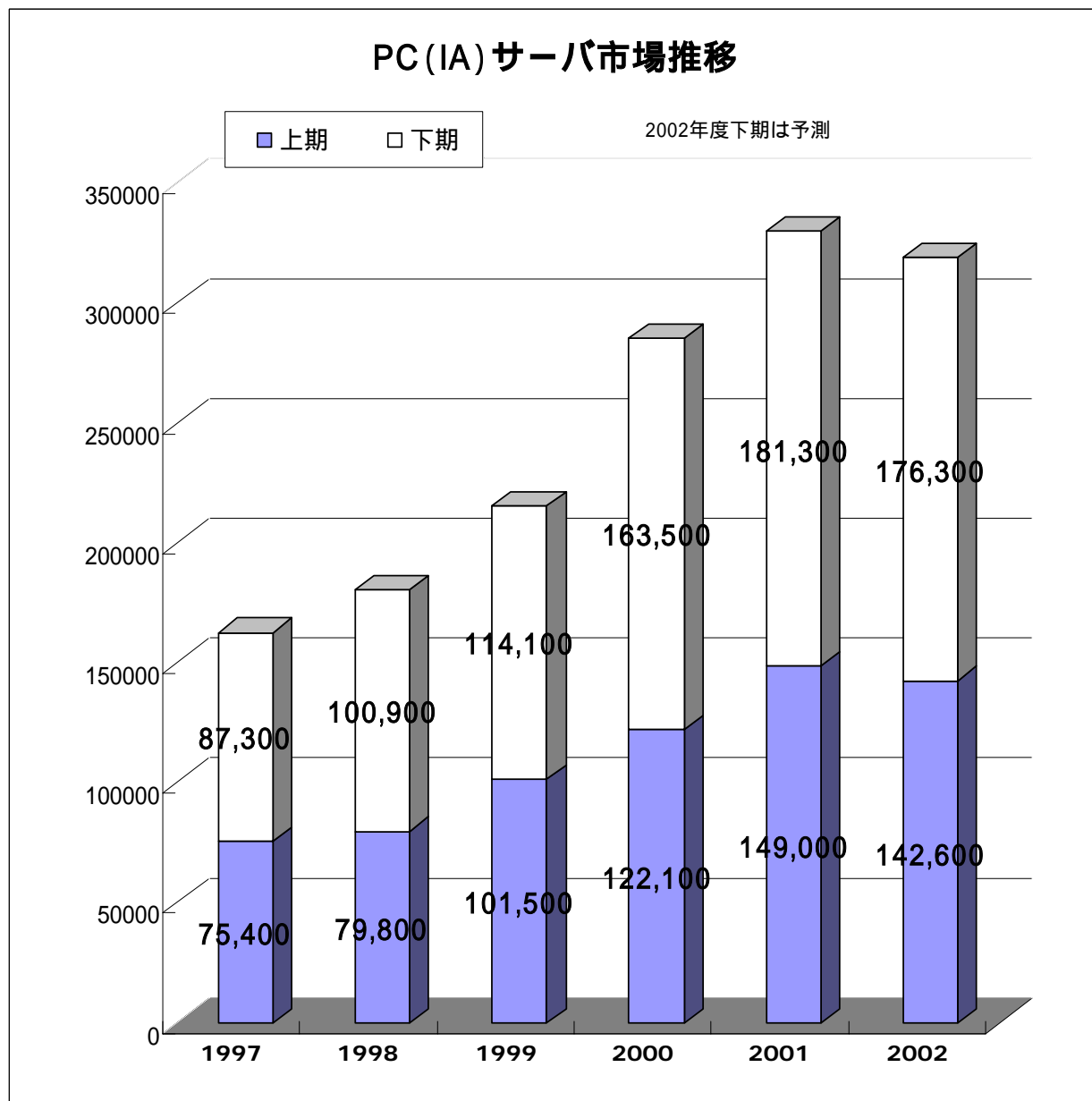
- 初めての対前年比マイナス成長で、市場は 142,600 台、-4.3% -

2002 年度上期は経済環境全般の冷え込みの影響が色濃く反映されて、初めての前年割れのマイナス成長となった。142,600 台、対前年比 95.7% となった。中堅・中小企業への情報系投資、インターネット需要を中心とするサーバ需要は拡大したが、昨年と比較すると基幹系システム全般と xSP などへの大型設備投資が停滞したことが要因となっている。

民需の冷え込みは業種を問わず蔓延しており、全般的に需要の動きは鈍かった。特に需要の中心であった製造業などの不調の影響は大きい。また 2001 年度にみられた住民基本台帳などの自治体特需の恩恵が本年度は少ないなどの反動要素もあった。そのため補正予算狙いの公需、学校などが一部下支えになったが、全体をカバーするには至らなかった。

PC(IA)サーバ総出荷台数推移/予測(97年度から2002年度)

	上期	前年同期比	下期	前年同期比	合計	前年比
1997年度	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
1998年度	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
1999年度	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
2000年度	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
2001年度	149,000	122.0%	181,300	110.9%	330,300	115.7%
2002年度	142,600	95.7%	176,300	97.2%	318,900	96.5%



[2002年度上期メーカーシェア]

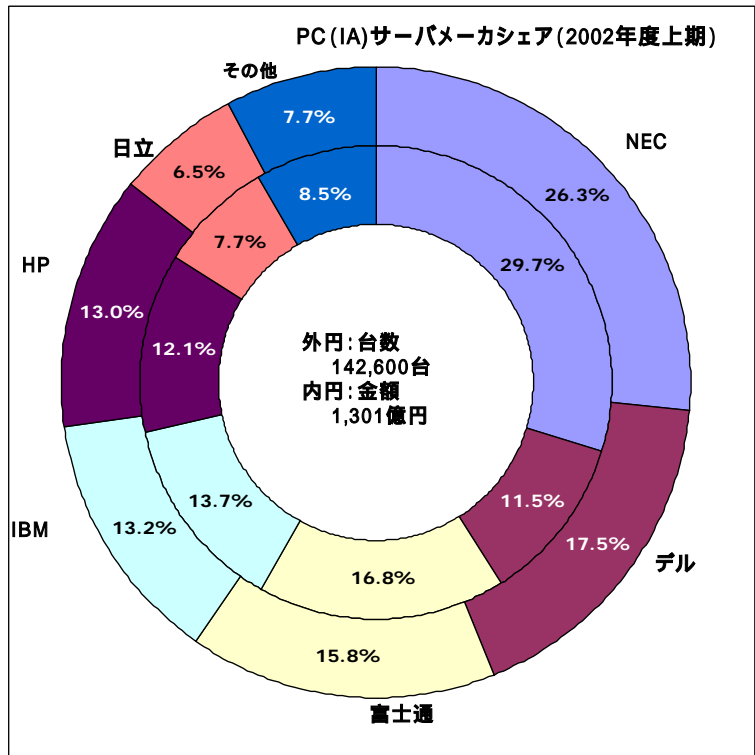
- トップNECは安定、デルが一気に2番手に

メーカーシェアに勢いの差が現れた。NECが依然トップで26.3%のシェアで安定している。チャンネル販売と大手企業・公需への直販力と幅広い製品対応などバランスのとれた展開が同社の強みだ。特に上期で目立ったのは既存顧客に対する実績だ。チャンネル経由での中堅・中小企業向けのエントリ系サーバの展開と基幹系システムのリプレースというプッシュ型販売で、一位シェアを維持している。

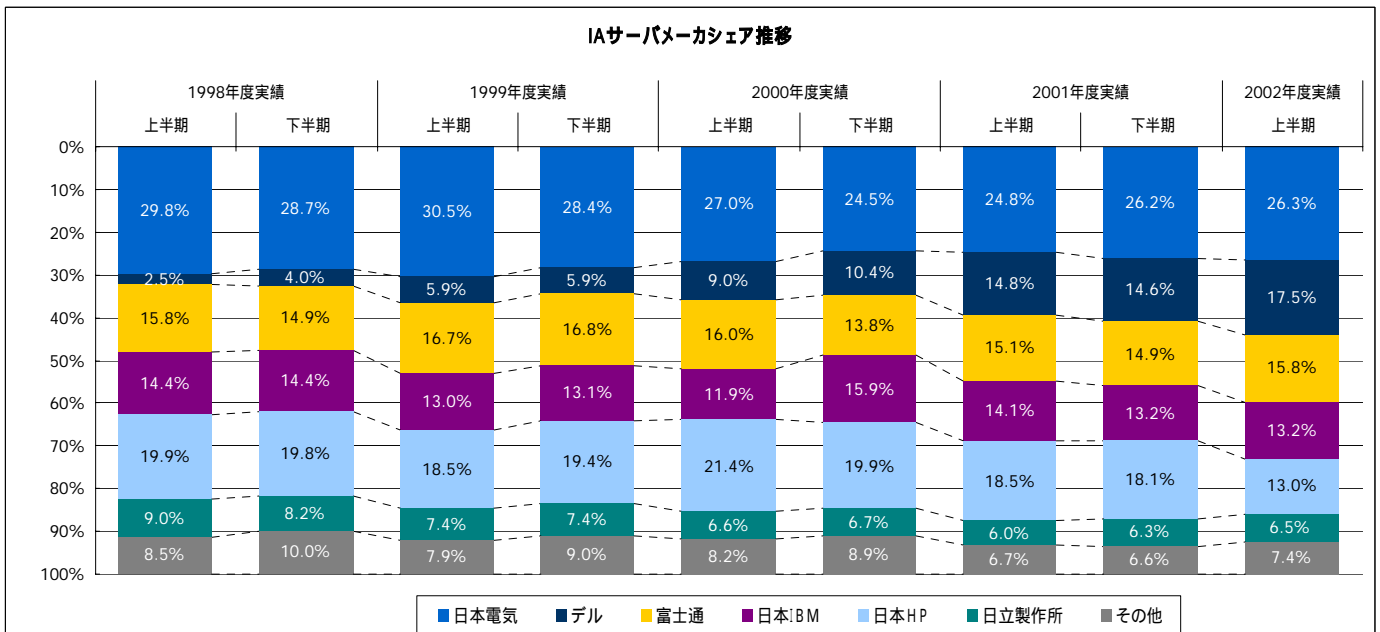
2番手にはデルが17.5%で富士通をかわしてトップ追撃の位置についた。景気低迷の影響はユーザからの引きが弱いために、プル型商談は低調だったが、デルのみ、中堅・中小企業や部門の情報関連用途に絞った需要を引き込んで、この分野ではほぼ一人勝ちだった。特に1CPUの低価格サーバに高い実績を収めた。

全般的にはチャンネル販売に強いNEC、富士通が販売店と通じてのプッシュ型で、既存顧客中心にリプレース、アドオン需要を確保したのが目立った。IBMは13.2%とシェアを落として4番手に下がった。

新生HPの今上期は合併の移行作業に手間取り、大幅に実績を落とした。特に旧HPサーバの落ち込みが響いて、合併後は以前の両者の合算シェアを下回る実績となった。



HPはCOMPAQ含む



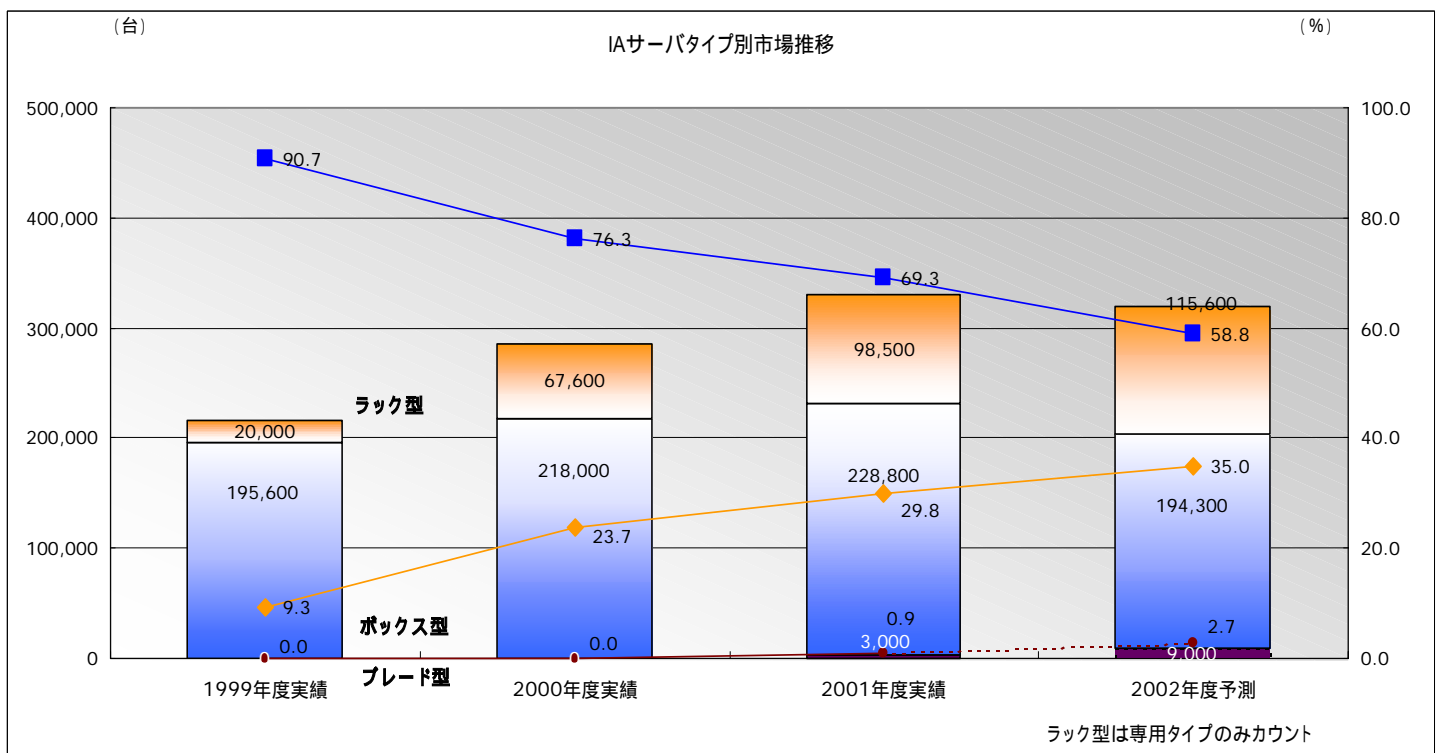
[2002年度市場展望]

- 前年比96.5%で318,900台予測だが、好転の要素も多い -

下期に入っても一挙に市場が好転する判断材料に乏しく、IAサーバ市場は現況の低迷状況で推移するだろう。そのため前年対比96.5%のマイナス成長となることが予想される。

- ・ラックマウント型(薄型)サーバ(据置タイプのラック利用除く)の需要が高い。また各メーカーがラック型サーバを政策的に推進しているために、下期以降はさらにウェイトを高めるだろう。その背景にはエン트리サーバの低価格化による単価下落をカバーする意図が見える。2002年度全体では、35%がラック型サーバで占められると予想される。
- ・LINUXはUNIXリプレースとして各社上位システムへの拡販の動きが見られる。
- ・期待の高まったブレード型サーバであるが、最も需要の見込んでいたIDCなどのボリューム層の不調があり、2002年度でのブレード型サーバは約9000台と見込まれ、市場のブレイクは2003年度以降になりそうだ。

今後の市場全体見通しでは、今下期を含め中堅・中小企業などの部門サーバでの情報利用や数年前の初期導入サーバユーザのNTからWindows2000へのリプレース需要は潜在的に高いために、現在のサーバ需要の不調は経済環境悪化による踊り場的な状況といえよう。2003年以降は再び増勢に転じる可能性が高い。



当調査データに関するお問い合わせ

Superior Market Research
and Analysis
For IT-Strategy
Nork Research Co.,Ltd

ノーク・リサーチ
担当: 伊嶋 謙二

e-mail: info@norkresearch.co.jp
〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5
電話 5629-2163 FAX 5629-2164
URL: <http://www.norkresearch.co.jp>